

伊藤病院だより
SUMMER

Voice

2010年6月1日発行 第30号 東京都渋谷区神宮前4-3-6 伊藤病院広報誌委員会



東京スカイツリー

表参道の慰霊碑をご存知ですか？

伊藤病院 院長 伊藤公一

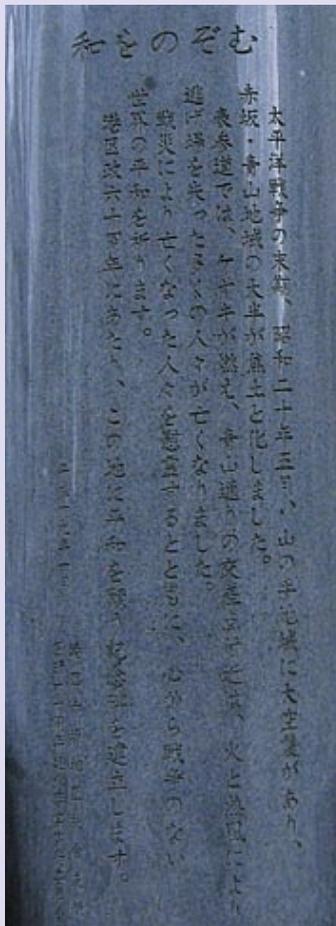


終戦記念日を迎える夏の号ですので、戦争の悲劇を紹介いたします。私どもが働く表参道の地は、現在こそ、ファッションブルタウンなどと言われておりますが、実に不幸な歴史も抱えています。

65年前の5月25日深夜に降り注がれた3300トンもの焼夷弾（しょういだん）によって、表参道は火の海と化しました。東京では同年3月10日に10万人以上の住民が亡くなった下町大空襲が有名ですが、自分たちが働く地域を襲った山の手大空襲でも、一瞬にして約3700名の方々が亡くなりました。

伊藤病院も例外ではなく、必死で救護に当たりましたが、築きあげたばかりの建物も診療録も全て焼失してしまいました。

それらの悲劇を忘れぬよう、青山通りと表参道が交わる交差点に、犠牲となった方々を追悼するための慰霊碑が建てられています。ここは連日、夕暮れ時ともなれば、若いカップルや仲間たちの待ち合わせ場所となる平和の象徴の交差点です。華やかな街が受けた過去の惨禍（さんか）を、現在の平和を謳歌する若者にも決して忘れられないようお願い、戦争の無い時が過ぎるよう、この碑に祈っております。



病院からの おしらせ

第10回臨床検査業務委員会報告会

伊藤病院 臨床検査室室長 宮崎直子

3月10日に、伊藤公一院長が10年間委員長を務めている全国病院経営管理学会の臨床検査業務委員会が「健全な臨床検査室運営のために必要なこと」をテーマに第10回報告会を開催し、同委員会の副幹事を務める当院臨床検査室 室長の宮崎も司会を担当しました。



臨床検査業務委員会は2000年に伊藤公一院長を委員長として全国病院経営管理学会の一委員会として発足、毎年「臨床検査室の現状把握と在り方の検討」を目的として臨床検査に関わるさまざまなテーマでアンケート調査を実施し、その結果分析や報告と共に臨床検査室の運営に関する提言を行っています。

今回の第10回報告会では、過去10年間のアンケート調査結果をふまえた分析結果の報告や、今回のテーマに沿った委員会からの収支管理・人材育成に関する事例報告、2010年度の診療報酬改定に関する講演が行われ、82名の参加者がディスカッションを交えながら「健全な臨床検査室運営」について検討しました。

第21回アジア太平洋内分秘会議のご報告 2010年1月9日～10日



伊藤公一院長、長瀧充二外科部長、北川亘診療技術部長、矢野由希子医師、竹間由佳医師が台北市で開催された第21回アジア太平洋内分秘会議（APEC）に参加して参りました。

本学会はアジア太平洋地域の内分秘医療に携わる医師が甲状腺・副甲状腺



疾患、下垂体疾患、糖尿病、副腎疾患、泌尿器科疾患、乳腺疾患など、幅広い立場からそれぞれの研究成果を発表し、内分秘学の向上と発展に貢献すると同時に、多くの意見交換をして交流を深めることを目的としています。

今年は以下の演題で当院医師が講演を行いました。

矢野由希子医師：Outcome of treatment for autonomously functioning thyroid nodules patients in our hospital: surgery, radioiodine and ethanol injection.
竹間由佳医師：A case of the metastasis of the incidental thyroid papillary carcinoma after operation for Graves' disease.



APECは伊藤病院に学会事務局が置かれ、伊藤公一院長がVice-President（副理事長）、北川亘診療技術部長がExecutive Committee（実行委員）、長瀧充二外科部長がAdvisory Board（顧問）を務めています。

またシステム管理室主任の齋藤功、診療情報管理室の田中真祐美の2名の当院職員が学会の運営に当たっています。APECに関する情報は当院ホームページから閲覧できます。



「インバウンド医療観光実証事業」が実施されました

“Voice”前号でもお知らせしましたが、医療観光が注目されています。医療観光の振興に向け、国土交通省観光庁では、「インバウンド医療観光実証事業」を実施しました。

上記実証事業において、協力病院である当院に中国から患者様が来院されました。セカンドオピニオンを求めたの御受診であり、血液検査と超音波検査を迅速に施行し、それらの検査結果を正確にふまえて杉野副院長が適切な診断を行いました。

中国の病院では受付にも長い行列ができ、受診当日に希望する医師の診察を受けるのは大変困難とのことで、患者様は当院のフレキシブルな診療システムに触れ、医療通訳の方とともに大変満足され、御帰国されました。そして、その納得のいく医療観光の様子は、後日、日本テレビの報道番組で成功例として放映されました。

医療観光に限らず、当院には以前より外国人患者様が大量来院されております。よって既に独自の対策を進めており、外国語の堪能な職員による通訳などのお手伝い、疾患についての書籍やリーフレット作成、海外の医療機関への英文紹介状作成システム導入などの受入環境整備を段階的に行ってまいりました。

今回の高評価を励みに、今後も海外からの患者様にも安心安全な専門診療を受けていただけるよう、病院全体で努めてまいります。



筑波大学で講義を行いました

伊藤公一院長は筑波大学大学院人間総合科学研究科の非常勤講師を務めておりますが、2月に同大学において講義を行いました。

講義は「パセドウ病の内科治療と甲状腺がんの診断における伊藤病院の取り組みについて」というテーマで甲状腺疾患診療についての専門的な話でしたので、会場には医師を目指す学生だけでなく、実際に診療に携わっている医師も参加され、活発な質疑が行われました。



第41回伊藤病院研究会



伊藤病院研究会は、当院の長年にわたる診療実績と日々の研究成果の発表の場として毎年開催しております。

今年は2月20日に開催し、「未治療バセドウ病の抗甲状腺薬治療」というテーマで佐藤尚太郎医師と松本雅子医師が発表し、つづいて「伊藤病院におけるエコー下穿刺吸引細胞診の成績」というテーマ



で北川亘診療技術部長が発表いたしました。

院外からも120名を超える医師が参加され、発表に続いて活発な質疑が行われました。

第3回伊藤病院フォーラム



院内各部署が業務改善に向けての取り組みを発表する伊藤病院フォーラムを3月13日に開催いたしました。

第3回となる今回は、職員113名が参加するなかで8演題が発表されました。内容も回を重ねる毎にレベルアップしており、甲乙つけがたいものであったため、今回は最優秀演題に2演題が選出されました。

ベテランの職員だけでなく多くの職員がこの経験を活かして、研究成果を外に向けて積極的に発信してまいります。

最優秀演題
『術後の悪心・嘔吐の発生頻度と天気・気圧の因果関係についての調査報告』（看護部 病棟）
『リスクマネジメントから見た採血～「質」向上へのアプローチ～』（診療技術部 臨床検査室）

優秀演題
『妊産婦の不安・悩み・知りたいことはなにか？』（看護部 医療相談室）



了徳寺大学で講義を行いました

当院医師が千葉県浦安市にある了徳寺大学の健康科学部において、昨年に続いて2回目となる外科学の講義を行いました。了徳寺大学は、伝統的文化芸術を学ぶ芸術学部と健康科学部を設けておりますが、学部相互で乗り入れができる大変ユニークな4年制大学です。

今回講義を行った健康科学部にはリハビリテーションの中核となる理学療法士をめざす「理学療法学科」と、トレーニング指導や怪我の応急処置を学び体育教師やトレーナーをめざす「整復医療・トレーナー学科」の2つの学科があります。

9名の医師による5日間、合計20時間を超える講義でしたが、普段は患者様の診療を行っている医師が、講義を通じて学生に医療への思いを受け止めていただき、医師にとって大変充実した講義となりました。



見学者のご紹介

前号でもご紹介いたしましたが、当院には様々な方が見学・研修にいらっしやいます。2月には、医師を目指して勉強・実習をされている医学部学生さんが当院に見学にいらっしやいました。見学後にご挨拶をいただきましたので、ご紹介させていただきます。

日本大学医学部4年生 石黒真喜誉さん

今回私は学生として3日間、手術、検査、外来、医療事務、相談室など様々な現場を見学させて頂きました。伊藤病院には甲状腺疾患に関しての患者数が圧倒的に多くて驚いたのと同時に、スムーズに進めるために様々な工夫がなされ各部署の連携がともしっかりしていることがわかりました。医師だけではなく、本当に多くの人が協力して成り立っていると実感しました。また内科・外科の医師の方々にも、自分の経験を含めた貴重なお話を伺うことで、進路決定のアドバイスもたくさん頂きました。

そして何よりも私が印象的だったのは、接して下さる方々がとても親切かつ熱心であることです。仕事の最中にも関わらず一度手を止めて丁寧にわかりやすく説明して下さることに、とても感激しました。甲状腺疾患に特化した伊藤病院は、患者さんの信頼に応えた質の高い



医療を提供できるとともに、関わる医療スタッフの非常に優れた人柄もこの病院の誇れる点の一つであると感じました。今回学び感じたことを胸に留め、日々精進していきたいと思っております。本当に貴重な体験をさせていただき感謝しています。ありがとうございました。

マイクロソフトの事例紹介で当院が紹介されました

当院は甲状腺疾患専門病院として、より早く、正確な処理を行うことができる新しい医療機器・システムの導入を積極的に行っておりますが、この度、当院で運用しております電子カルテと情報端末を1台のパソコンに導入しているシステムがマイクロソフト社の事例紹介に取り上げられました。

医療界においては、万が一の情報流出やウイルス感染を防ぐために、電子カルテは外部のネットワークとは完全に切り離しておくことが一般的です。そのため医師・看護師など職員間での情報のやりとりや、電子メールを使用するためには別のパソコンを用意する必要がありました。

この度取り上げられたシステムは、パソコンを仮想化する技術を利用して、電子カルテと他のシステムを切り離したまま、1台のパソコンで操作できるようにしたものです。これにより、電子カルテを安全に利用しながら業務効率の向上とともにスペースの確保が可能となりました。

詳しくはマイクロソフト社のホームページをご覧ください。
<http://www.microsoft.com/japan/showcase/>

医師の白衣が新しくなりました

本年1月に常勤医師の白衣をリニューアルいたしました。

今まで医師は様々な白衣を着用していましたが、「医師も統一感をもって患者さんに接しよう」という杉野副院長の提案で選定を開始し、クラシコ社の製品を採用いたしました。

この白衣は、イタリア式のテーラーメイドスーツの技術を注ぎ込みつつも、医師の仕事を損なわぬよう機能的に作られており、TBS系ドラマ「Mr.ブレイン」で採用されたり、白衣としては初めてグッドデザイン賞にもノミネートされました。また、ヨーロッパのデザイン賞や企業広告などに採用されていますので、ぜひご覧ください。

伊藤病院

ITO HOSPITAL

仮想化技術を採用することで、電子カルテ用端末と、インターネット接続可能な情報系端末を1つのPCに安全に隔離、ITインフラの「共有化」を促進することで、業務効率とコスト削減に貢献

※新築の一環として、全国に数少ない甲状腺疾患専門病院として、1937年の開設から先代の医師を継承してきた伊藤病院。当院では、各病棟で稼働される患者の稼働にスムーズな診療を提供し、待ち時間の短縮などを行うために、ITを積極的に活用してきました。そして、2009年、新築第1・第2棟の竣工したスペース内で、電子カルテが高度なセキュリティ対策可能な端末を両方利用できるように、1台のPCで2つの用途を安全に分離できるように、マイクロソフトのWindows Virtual Enterprise Centralized Desktop (Windows VEDC)を導入し、隔々の対応などを迅速化する上で、医師・看護師・技師の業務効率向上に役立てています。

■ 導入の経緯

離れたスペース内で、電子カルテと情報系の2つのシステムを、安全かつ効率よく活用するために

甲状腺疾患専門病院として、より良・更善を提供するために、常に新しい医療設備・装置の導入に力を入れている伊藤病院。その取り組みの一環として、2009年10月に完成した新築第1・第2棟に導入されています。伊藤病院院長 伊藤 浩一氏はこのようにおっしゃいます。「IT設備の導入は、なかなか完成できないものが多い印象。由に閉鎖的な状況はなく、ご訪問と上手にお付き合いすることで一歩前進を完了することができました。そこで当院では医療従事者がいつでもどこでも安心して業務が可能なように、マイクロソフトのWindows Virtual Enterprise Centralized Desktop (Windows VEDC)を導入し、隔々の対応などを迅速化する上で、医師・看護師・技師の業務効率向上に役立てています。」

■ コーポレートサービス

「最新のネットワークサーバー、PC、プリンターといった環境は、システムを構築した企業のものでもなく、最新の設備は最新の設備であるわけですから、標準に準拠しています。PCサーバーを複数のシステムで共有して、複数環境で使われても、運用は標準に準拠しています。また、ネットワークの運用も、守衛の責任範囲で一人参入だと考えています。」

伊藤病院 情報システム課 課長 佐藤 浩一

平成22年度 診療報酬改正の概要について

平成22年4月に診療報酬の改正が施行されました。会計時の一部負担金に関わる診療報酬点数の変更など、今回の改正の概要は以下のとおりでございます。

主な診療報酬点数の変更について

項目	改正前(点)	改正後(点)
再診料	60	69
外来迅速検体検査加算(1項目につき)	5	10
末梢血液一般検査	22	21
血液採取(静脈)	11	13
咽頭ファイバースコープ	620	600
組織診断料	410	500
エックス線撮影料(デジタル撮影)	65	68
CT撮影料	850	900
高エネルギー放射線治療(1門照射)	930	840
高エネルギー放射線治療(非対向2門照射)	1,240	1,320
放射性同位元素内用療法管理料 (甲状腺機能亢進症)	250	1,390
放射性同位元素内用療法管理料(甲状腺癌)	500	1,390
副甲状腺摘出術	9,280	12,060
頸部郭清術(片側)	12,400	16,120
放射線治療病室管理加算(1日につき)	500	2,500

なお、甲状腺の関連検査(TSH、FT3、FT4、TRAb、超音波検査など)の点数改正はございません。

明細書の発行について

保険医療機関は、領収証を交付するときは当該費用の計算の基礎となった項目ごとに記載された明細書を交付することとなりました。

当院においても、医療の透明化や患者さまへの情報提供を積極的に推進していく観点から、希望される方には、診療報酬の算定項目の分かる明細書を発行しております。明細書には、使用した薬剤の名称や行われた検査の名称が記載されるもので、発行を希望される方は、会計窓口までお申し出ください。無料で発行いたします。

なお、全ての患者さまへの明細書の発行については、自動精算機の改修が必要なため、おこなっておりませんのでご了承ください。

上記内容については、関東信越厚生局へ届出致しております。

会計時の負担割合について

会計時の負担割合の変更はございません。高齢受給者(70~74歳)の負担割合も平成23年3月末まで経過措置期間延長のため、引き続き1割負担もしくは3割負担となります。

以上、診療報酬点数等についてご不明な点などございましたら、会計窓口までお尋ねください。

委託業者のご紹介：イフスコヘルスケア株式会社

私たちは「イフスコヘルスケア株式会社」です。伊藤病院に入院されている患者様の食事をお作りして今年で5年目になります。現在働いているスタッフは調理師2名、管理栄養士1名、栄養士4名、パート2名の計9名で運営しております。



主な業務内容は1日3食のお食事を作ることで、そのほかにも献立の作成や食材の発注・検品、各病棟への配膳・下膳、食器や調理器具の洗浄とさまざまな仕事を分担して行っています。特に、月一回お出しする「季節の献立(行事食)」では、旬の食材を使ったレストラン並みの食事をご提供し、多くの患者様からご好評をいただいております。

我が社の経営理念として、社は「誠実」、社訓「衛生」「規律」



「協力」とともに、ただ食事をご提供するだけでなく、衛生的で安心して食べていただける食事、家庭の温かさや安らぎを感じていただける食事、明るく健康的な未来をはぐくむ食事のご提供を目指して、技術向上やサービスのノウハウをもとに創意工夫し、追求し続けていきたいと思っております。



伊藤病院の基本理念である「甲状腺を病む方々のために」と、私たちが目指すべき姿を心掛けながら一人でも多くの患者様から「この病院の食事はおいしかった。ありがとう。ごちそうさま。」と言っていたり、これからもスタッフ一同、どうぞよろしくお願いたします。

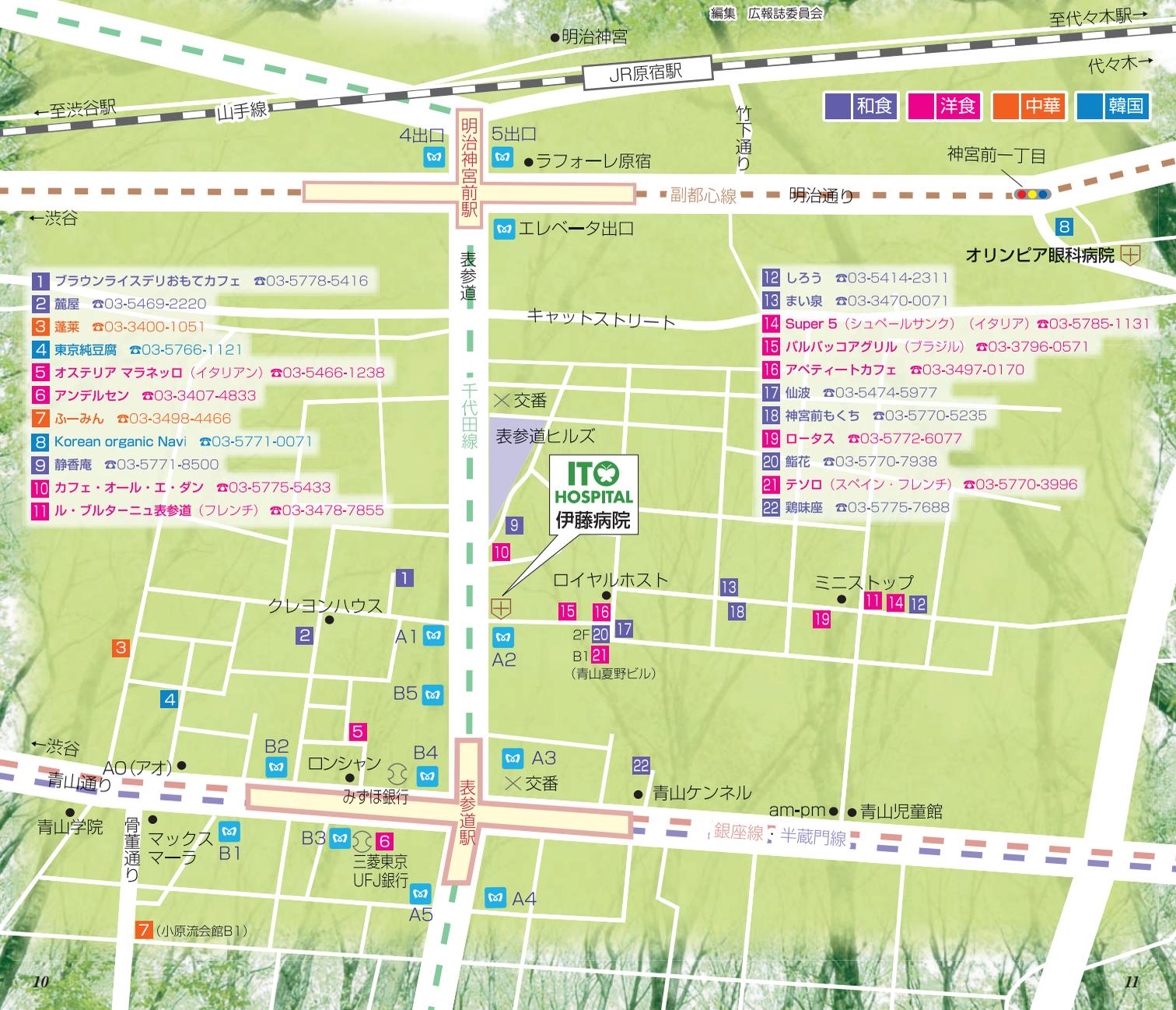


春の行業弁当 筍御飯

「ごあいさつ」

いつも伊藤病院広報誌「Voice」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。
 2003年3月の創刊号から始まり、おかげさまで今号で30号発行を迎えることができました。
 30号記念特集として、創刊号より「表参道ランチ&グルメ」コーナーでご紹介してまいりましたお店を
 振り返ってみましたので、ぜひご覧ください。
 今後とも当院広報誌「Voice」をよろしく願いたします。

編集 広報誌委員会



- 1 ブラウンライスデリおもてカフェ ☎03-5778-5416
- 2 籠屋 ☎03-5469-2220
- 3 蓬萊 ☎03-3400-1051
- 4 東京純豆腐 ☎03-5766-1121
- 5 オステリア マラネッロ (イタリアン) ☎03-5466-1238
- 6 アンデルセン ☎03-3407-4833
- 7 ふーみん ☎03-3498-4466
- 8 Korean organic Navi ☎03-5771-0071
- 9 静香庵 ☎03-5771-8500
- 10 カフェ・オール・エ・ダン ☎03-5775-5433
- 11 ル・ブルターニュ表参道 (フレンチ) ☎03-3478-7855

- 12 しろう ☎03-5414-2311
- 13 まい泉 ☎03-3470-0071
- 14 Super 5 (シュペールサンク) (イタリア) ☎03-5785-1131
- 15 パルパッコアグリル (ブラジル) ☎03-3796-0571
- 16 アベティートカフェ ☎03-3497-0170
- 17 仙波 ☎03-5474-5977
- 18 神宮前もくち ☎03-5770-5235
- 19 ロータス ☎03-5772-6077
- 20 鮎花 ☎03-5770-7938
- 21 テソロ (スペイン・フレンチ) ☎03-5770-3996
- 22 鶏味座 ☎03-5775-7688

- 1 クレヨンハウス
- 2
- 3
- 4
- 5
- 6
- 7 (小原流会館B1)

- 9
- 10
- 11
- 12
- 13
- 14
- 15
- 16
- 17
- 18
- 19
- 20
- 21
- 22

表参道寄り道スポット

明治神宮 御苑の花菖蒲

今号では過去にVoiceの表紙を飾りました明治神宮の花菖蒲園をご紹介します。「うっせみの 代々木の里はしづかにて 都のほかの ところこそすれ」



明治天皇がこの和歌を詠まれた頃、代々木は美しい武蔵野の地でした。明治神宮が創建されて約90年。山の手線に沿って続く、鬱蒼たる森が代々木公園とともに広大な緑地を形成し、今でも都会にいながら喧騒から離れた別世界となっています。

御苑の花菖蒲は、明治26年（1893年）、明治天皇の思召しにより昭憲皇太后のために植えられたものです。

明治神宮御造営当時は、江戸系の48種があったと伝えられており、その後、堀切（葛飾区）など東京近郊から江戸系の花（※1）が集められ、現在では約150種1500株が咲き競います。

新緑で輝く深い社に囲まれ、清正井（きよまさのいど）から湧き出た清らかな水によって潤う菖蒲田は、比類のない気品をたたえています。

※1 花菖蒲には「江戸系」「肥後系」「伊勢系」などがあります。

御苑の花菖蒲をもっと知るには『御苑の花菖蒲』（B6判、50円）というものがあります。

日頃、丹精をこめて花菖蒲を育てている林苑職員さんがまとめた、手のひらにおさまる小冊子です。この冊子を片手に菖蒲田をめくれば、花菖蒲が10倍楽しめるのではないのでしょうか？

また、花菖蒲の時期以外でも、たくさんの花が咲き、野鳥の声が訪れる人の耳を楽しませてくれると思います。

ぜひ足を運んでみてください。



境内開閉時刻

1月	6:40-16:20	7月	5:00-18:20
2月	6:20-16:50	8月	5:00-18:00
3月	5:40-17:20	9月	5:20-17:20
4月	5:10-17:50	10月	5:40-16:40
5月	5:00-18:10	11月	6:10-16:40
6月	5:00-18:30	12月	6:40-16:00

※御苑（年中無休）

3月～10月	9:00-16:30
11月～2月	9:00-16:00
6月中のみ	8:00-17:00

名称 明治神宮 御苑の花菖蒲
住所 〒151-8557 東京都渋谷区代々木神園町1-1
電話 03-3379-5511（代表）
HPアドレス <http://www.meijijingu.or.jp/index.html>
入苑時間 5月 9:00～16:30（17:00閉門）
6月平日 8:00～17:00（17:30閉門）
7月土日 8:00～18:00（18:30閉門）
年中無休

定休日 JR「原宿」駅、東京メトロ千代田線「明治神宮前」駅より徒歩5分
アクセス
拝観料 大人 500円（300円）
小・中学生 200円（100円）
幼児 無料（50円）

※（ ）内は20人以上の団体料金です（神域の維持・管理のためご協力願います）

基本 DATA

表参道ランチ&グルメ情報

青山こころ庭

伊藤病院から表参道交差点を抜けてすぐの「青山こころ庭」。お昼の日替わり定食は、魚・お肉・丼物など（700円～）お手頃価格で、しっかりと和食ランチが頂けます。

オススメは、生米からじっくり炊き上げる「釜飯」です。種類も豊富で五目・あさり・とり・たけのこ・椎茸・山菜・鮭・蟹と迷ってしまいます。生米から炊き上げるので20分程かかりますが、待って良かった☆と笑顔になること間違いなしの心がほんわかする釜飯です。

そして釜飯に負けない人気menuが「坦々麺」！見た目は辛そうですが、胡麻の風味が効いてピリツとしながらもまろやかな味が癖になりそうです。

席はカウンター・お座敷もあり、1人でも子供連れでも大丈夫です。平日は13:25～（土・祝日は終日）ホットコーヒーサービス、+50円でアイ스티ーまたはアイスコーヒーに変更可能です。

お店の方も親切で、ゆっくりできる雰囲気です。夜もおいしいお食事が楽しめますよ☆



お店の方から一言

定食のご飯は、大盛りおかわり自由です。プラス100円で、カラダに美味しい「黒米雑穀ご飯」にできます。お気軽にお立ち寄り下さい。

おすすめメニュー



店名 こころ庭
住所 〒107-0062 東京都南青山5-1-3 青山ラ・ミアビルB1
電話 03-3499-3090
営業時間 ランチタイム：11:30～15:00
席数 60席
定休日 日曜日、2月・8月のビル休館日

お店 DATA



ここ数年のエコー下穿刺吸引細胞診検査数の推移についてご紹介いたします。

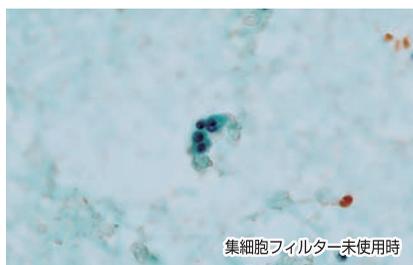
棒グラフは1998年から2009年までの年次別のエコー下穿刺吸引細胞診の症例数の推移を示しています。1998年は約2800症例であったものが、2009年には約5900症例と2.1倍に増加しています。



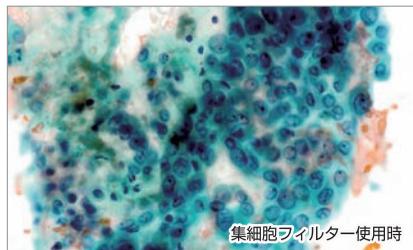
エコー下穿刺吸引細胞診検査は、甲状腺やリンパ節に針を刺して細胞を採取し、良性、悪性の診断をつける検査です。

ほとんどの場合は細胞採取が可能ですが、なかには細胞がとれにくいタイプもあります。当院では採取された細胞をより正確に診断するため、患者様から採取した細胞を集細胞フィルターに通して診断しています。集細胞フィルターを通すことによって、写真でお示したように診断できる細胞が多くなり診断率が向上します。

本邦の甲状腺癌取り扱い規約で、細胞成分が少なく病変を推定できない比率を10%以下にすることが推奨されています。当院ではこのような工夫によってその率が2.4%（2006～2008年集計）と低値で、極めて高い診断率を維持しています。



集細胞フィルター未使用時



集細胞フィルター使用時



集細胞フィルターの使用で細胞が多く採取されています

食中毒とは体内に入った病原菌、毒素により、おもに消化器症状（嘔吐、腹痛、下痢）がおこることです。原因によって3種類に分けられます。最も多いのが、細菌性食中毒で病原菌、もしくはその毒素による健康障害です。細菌性食中毒は気温の上昇する6月頃から増加し、7～9月に最も多くなります。通常は一過性で、後遺症もなく完治しますが、ひどい場合は、数年前に頻発したO157大腸菌感染などのように、死にいたることもあります。次に多いのが自然毒食中毒で、フグ、毒キノコなどの毒素により起こるもので、発生件数・患者数は細菌性より少ないのですが、死亡率が比較的高いという特徴があります。3つ目は有毒性化学物質の摂取で起こる化学性食中毒で、日本では頻度は低いのですが、こちらも死亡率が比較的高い特徴があります。

今回はこの中で頻度が高く、これからの時期増えてくる細菌性食中毒についてお話しいたします。細菌性食中毒の原因菌は最近変化しつつあります。以前は我が国では魚が中心の食生活であったため、魚介類に付着する腸炎ビブリオによるものが多かったのですが、食生活の欧風化にともない、肉、乳製品を多くとるようになり、サルモネラ、カンピロバクターといった卵・肉類に関連した微生物による感染の頻度が増加しています。

同時に食事をした人が発症したり、特徴的な原因食物が判明することなどで診断は可能ですが、原因がわからないことも多々あります。治療は原因菌が絞り込めれば、抗生物質の内服をすることもありますが、通常は整腸剤の内服などで経過観察します。

予防としては、食品取扱者（家庭では食事を作られる方）は手洗いを十分すること、まな板、包丁、ふきんなどの調理器具をまめに消毒することが重要です。材料はよく洗い、なるべく新鮮なものを用いて調理します。また冷凍食品の解凍は室温で行わず（内部が解凍されるまで表面近くは常温にさらされるため、微生物が繁殖しやすい環境になってしまいます）、冷蔵庫で行い、調理後は早めに食べるなどが挙げられます。

最近はお弁当を持参する方も多いと思いますが、気温が上昇してくると、お弁当も食中毒の原因になるため、注意が必要です。前の晩に作った場合は、経過時間が長く、食物がいたむ可能性もあります。注意点としては、お弁当箱は清潔を保つこと、生ものは避けること、前日の夕食などの残りをを用いる場合はレンジで加熱することが挙げられます。

伊藤公一院長が愛知県保険医協会で講演を行いました

大須診療所 事務長 岩橋靖

2月6日、名古屋・安保ホールにて、愛知県保険医協会主催の学術講演会が開催されました。当日、伊藤公一院長が特別演者として講演を行いました。参加者は内科・外科・小児科などの開業医の先生方であり、名古屋市内のみならず愛知県全域から50名以上もの先生方がお集まりになりました。

講演タイトルは「伊藤病院と大須診療所における甲状腺疾患への取り組み」についてであり、私どもの専門診療の実際を紹介しました。なかでも、専門医への紹介タイミングについて具体的な例を挙げながらの解説には大きな注目が集まりました。

甲状腺疾患における円滑な診療連携は、地域を問わず重要なポイントであり、東海地方においても、かかりつけ医の先生方の甲状腺疾患への関心の高さが、ひしひしと感じられました。

伊藤病院同様、「甲状腺を病む方々のために」を理念に、ひたすらに専門診療を重ねてまいりました大須診療所も、東海地方のなかで、その存在が次第に認知されるようになり、様々な施設より多数の患者様をご紹介頂くようになりました。実際の診療連携数も日々増加し、開院以来、現在までに500の施設から2000件近くの患者様御紹介を承っております。

伊藤病院の診療連携施設として6年前にスタートした大須診療所も着実に進歩しております。そして今後も、ますます中京・東海地区における甲状腺医療の中核機関として、地域社会に貢献できるよう鋭意努力してまいります。

今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。



伊藤病院1Fに当診療所への直通電話を設置しております。ご質問などございましたら、お気軽にお電話ください。

大須診療所

住所：愛知県名古屋市中区大須3丁目30番地60号 大須301ビル4階
電話：052-252-7305 FAX：052-252-7308 HP：http://www.osu-shinyoujyo.jp/

伊藤病院 診療技術部長 北川巨



エコー下穿刺吸引細胞診

甲状腺の検査には、甲状腺ホルモン検査や超音波検査をはじめとする画像検査のほかに細胞診検査があります。今回はこの細胞診検査についてお話しします。細胞診検査は穿刺吸引細胞診検査と言って、甲状腺に細い針を刺して細胞を吸引採取し、顕微鏡で腫瘍の種類を確認する検査のことで、首から針を刺すので痛いとか怖いと思われるかもしれませんが、使用する針は採血針と同じくらい細いものを使用しますので、麻酔を使用しなくても痛みは採血と同じくらい軽度です。検査時間も数分程度で済みます。

現在、超音波機器が発達していますので、病変部を超音波で見ながら針を病変部にピンポイントにヒットさせて細胞を採取することができます。このため2~3mm程度の病変でも充分診断をつけることが可能です。これをエコーガイド下穿刺吸引細胞診と呼んでいます。また血管を避けて針を進めることができるので、出血などの合併症も少ない安全な検査と言えます。

吸引した細胞は、細胞診指導医によって診断がつけられます。診断は大きく①悪性②悪性疑い③良性か悪性が判断が難しいもの④良性⑤細胞が取りにくいものの5つに分けられます。

細胞診は腫瘍が良性か悪性かの判断をするのに極めて有用性の高い検査です。甲状腺癌の大部分を占める甲状腺乳頭癌は細胞に特徴があるので、ほぼ診断をつけることが可能です。しかし、濾胞腺腫（良性）や濾胞癌（悪性）のように細胞診では良性か悪性が判断が難しい腫瘍もあります。

結節性甲状腺腫の場合、超音波検査や細胞診検査の結果などを総合的に判断して、主治医が治療方針を決定しています。

細胞診のエコー画像
甲状腺左葉の腫瘍内部に穿刺針が確認できます

1912年に橋本策（はかる）博士が報告した甲状腺の慢性炎症の病気（橋本先生の名前をとって橋本病と名付けられました）は、甲状腺ホルモンを補充するという方法で治療されます。しかし、橋本病と診断された患者様すべてが治療を受けるわけではありません。まずは治療を受けるべき病状であるかについて診断します。

治療を受けるべきか否かの判断について

橋本病では甲状腺が慢性的に炎症を起こします。その結果、甲状腺ホルモンを産生する機能が低下してしまうこと（甲状腺機能低下症といえます）があり、その場合は治療が必要となります。つまり、橋本病であり、かつ甲状腺機能低下症の状態となつてはじめて治療が必要と判断されるのです。橋本病と診断された方は、お手持ちの血液検査結果が記載されているプリントを参照してください。FT3（遊離トリヨードサイロニン）とFT4（遊離サイロキシン）の数値が低下し、TSH(甲状腺刺激ホルモン)の数値が増加している甲状腺機能低下症と判断されます（※1）。症状が無いとしても、甲状腺ホルモン不足が長期間続くと心臓の動きや肝臓の機能が悪化するなど、新陳代謝の低下による影響がさまざまな臓器に出てきます。また、血液中のコレステロールの濃度が上がり、動脈硬化を早めたりすることもあります。このため、甲状腺機能低下症に対しては治療が必要なのです。

※1 [血液検査項目について]	基準範囲 (単位)
FT3 (遊離トリヨードサイロニン)	: 甲状腺ホルモンの1つ 2.2~4.3 (pg/ml)
FT4 (遊離サイロキシン)	: 甲状腺ホルモンの1つ 0.8~1.6 (ng/dl)
TSH (甲状腺刺激ホルモン)	: 脳の下垂体という部分から分泌される。甲状腺ホルモンの分泌を促すホルモン。 0.2~4.5 (μU/ml)

甲状腺ホルモンが血液検査で正常な数値であっても、実はごくわずかに甲状腺ホルモンが少ない状態のことがあります。これを「潜在性甲状腺機能低下症」と呼びますが、血液検査でFT3とFT4が正常値、TSHが正常範囲を超えて高値のときに判断されます。潜在性甲状腺機能低下症の場合も、持続しますと血液中のコレステロール濃度上昇（脂質異常症）など体に悪い影響が出ることがあると考えられております。あくまでもひとつの目安ですが、血液中のTSH値が10μIU/ml以上であり、その異常な高値が持続している場合は悪影響が出現する可能性があるために治療が開始されます。血液中のTSH値が10μIU/ml未満であったとしても、既に脂質異常症を指摘されている方なども治療が開始されることがあります。また、妊娠の希望がある方や妊娠中の方は注意が必要です。ごくわずかな甲状腺ホルモン不足であっても、胎児に悪影響を及ぼす可能性は否定できません。実際に潜在性甲状腺機能低下症は胎児の発育障害（知能低下など）をもたらすことと、また排卵異常から不妊症の原因となりうる」と報告されています。このため妊娠中や妊娠の予定がある方は、潜在性甲状腺機能低下症と診断されると治療が開始されます。

一方で、橋本病であっても甲状腺機能が正常である場合は、原則として治療をいたしません。甲状腺機能が正常であれば、(甲状腺がとても大きい場合を除けば)橋本病であっても体調を崩すことがないから

です。橋本病と診断された患者様の全体のうち約6割の方は治療を受けずして甲状腺機能が正常（血液中の甲状腺ホルモンの濃度、TSHの濃度が正常値）であると考えられており、橋本病であっても治療の必要がない方が多いです。

また、甲状腺機能が低下していても、すぐに治療を開始せずに様子を見ることがあります。食事などでのヨードの摂取量が過剰ですと甲状腺機能が低下することがあり、この場合は薬による治療を受けずに良くなることが多いです。ヨードは昆布などの海藻類やイソジン、グーグルなどの薬剤に多く含まれています（※2）。例えばお菓子の昆布を毎日食べたり、イソジンで毎日うがいをしていると甲状腺機能が低下することがあり、それをやめるだけで数ヶ月の経過を経て甲状腺機能が正常化することが多いです。経過を見ていても改善がない場合は内服加療を開始します。その他、甲状腺機能が低下していると判断される以前に、動悸や息切れ、物を持った時に手が震えるなどの体内の甲状腺ホルモンが過剰に存在するときにてくる症状が先行している場合は、「無痛性甲状腺炎」という一時的な甲状腺機能異常が自然に回復している途中過程である可能性があります。この場合は自然に甲状腺機能が正常になることが多く、やはりしばらく治療をせずに経過観察をいたします。

※2 [ヨード含有量が多いものの代表例]

- (食べ物) 主に海藻類。昆布に最も多く含まれ、次いでひじきに多い。海苔やわかめ、寒天は含有量が極めて少ない。実際には、昆布を毎日摂取したり、その他の海藻も大量摂取しなければ影響はほとんどないといわれる。
- (薬剤) ・内服薬：ピセラルジン、エスペラン、アリプロイド、エスバレキサン、アンカロン
・消毒薬：イソジン・染剤剤；アミノレバン、エレントール、ヘバン

治療とその効果について

甲状腺機能低下症の治療方法は、体で分泌できない分の甲状腺ホルモンを補うことです。

甲状腺ホルモン薬には2つあり、治療に使うのはサイロキシン（商品名チラーチンS）です。

高齢者や心臓に病気のある人・機能低下が著しい方は、少量から服用を始めて慎重に増量します。なぜなら、甲状腺ホルモン薬は適量を服用していれば副作用はありませんが、急に服用すると心臓に負担がかかることがあるからです。治療を続けますと血液中の甲状腺ホルモンやTSHの濃度が正常になり、甲状腺機能低下による症状はだんだんなくなってきます。甲状腺腫が大きい場合にはある程度小さくなりそのままの大きさで残ることがありますが、大きな甲状腺腫があっても機能低下症が悪くなるわけではありません。

2~3ヶ月中には薬の適量が決まります。血液検査の結果に基づいて決まった量を服用していただくことで、橋本病が原因で体調を崩すことなく生活していただけます。適量が決まった後は同量の服用を継続しなければならぬことが多いのですが、お薬の減量や中止することもあります。このため、血液検査を実施することで病状を確認させて頂きたいです。定期的な通院・検査施行によって、あなたご自身のお体にあった治療を受けていきましょう。

東京スカイツリー

東京・墨田区で現在建設中の東京スカイツリーは、2012年春の開業を予定しており、完成すれば高さ634メートルと、自立式の電波塔としては世界一の高さになる予定の建物です。2010年3月29日には東京タワーの高さを抜き、国内で最も高い建造物となり話題になることも多くなりました。

周辺地域では東京スカイツリーにちなんだ食べ物なども発売され遊びに行くのも一つの楽しみ方です。



編集後記

「Voice」は本号で記念すべき30号を迎えましたが、今回の夏号、お楽しみいただけましたでしょうか？

創刊から約7年が経ち、ここ伊藤病院も表参道界限もずいぶんと変化してきました。

すっかり見慣れた表参道ヒルズですが、創刊当時は歴史ある同潤会青山アパートが取り壊し前でした。

本号から「Voice」の編集に携わらせて頂く事となり、バックナンバーを読み返してとても懐かしくなりました、と同時に今後の伊藤病院・表参道の進化が楽しみになりました。

これからも、この「Voice」をお読み頂いた方々に一つでも多くの笑顔と、「なるほど！」の声が生まれますように…と願いを込めて、また、50号・100号となった後、やはり笑顔で読み返せる「Voice」をお届けしていきたいと思えます。

次回秋号もお楽しみに！

(岡部)

甲状腺疾患書籍のご案内



「よくわかる 甲状腺の病気」

著者：伊藤公一
定価：1,360円（税込）
発行：主婦と生活社



「専門医が答える Q&Aバセドウ病」

著者：伊藤公一
定価：1,470円（税込）
発行：主婦の友社



新刊

「甲状腺の病気」

速やかな回復のための最新知識
監修：伊藤公一
定価：1,365円（税込）
発行：法研



「甲状腺の病気の治し方」

監修：伊藤公一
定価：1,260円（税込）
発行：講談社



「甲状腺の病気 バセドウ病・橋本病・甲状腺腫瘍ほか」

監修：伊藤公一
定価：1,470円（税込）
発行：主婦の友社

★いずれの書籍も伊藤病院1F売店で販売しております。ぜひ、ご利用ください。

発行 2010年6月1日発行 第30号 伊藤病院広報誌委員会

ITO HOSPITAL
伊藤病院

〒150-8308 東京都渋谷区神宮前4-3-6

TEL : 03-3402-7411

FAX : 03-3402-7415

URL : <http://www.ito-hospital.jp>